

棚倉町立棚倉中学校 実践研究テーマ:自分のよさを伸ばし、「なりたい自分」の実現に向けてチャレンジする生徒の育成
サブテーマ:学ぶ意欲とスキルを育てる授業づくり(R4)

【学校教育全体で取り組むために大切にしたこと】

- ◎生徒の実態把握をもとにしためざす資質・能力の設定
 - 行事を通して学級・学年集団としてまとまることができる。
 - 将来の夢や目標を持っている。
 - 他者を思いやることができ、人の役に立ちたいと考えている。
 - ▲課題意識をもって学習に取り組む姿勢が弱い。
 - ▲「なりたい自分」になるために、粘り強く取り組もうとする力が弱い。
 - ▲難しいことにもチャレンジしようとする気持ちが弱い。
- ◎育てたい資質・能力の設定⇒「ほめポイント」として共有
 - 1学年 「互いに協力し合い、自分のよさを伸ばせる力」
 - 2学年 「自分のよさを大切にし、前向きに挑戦する力」
 - 3学年 「自分のよさを生かしながら、将来の生き方について考える力」

【キャリア教育の推進】



【校舎掲示物】

- 学年・教科ごとに、将来とのつながりを実感しやすい学習単元をピックアップ
- 教員・生徒の双方が、身に付けたい力を意識
- 学ぶ意欲の喚起

【キャリア教育推進に向けた具体的な取組】

(1) 立志教育の推進

- 2年生での立志式を契機として、「1年・志を求めて」「2年・志を立てる」「3年・志に向かって」を学習活動の流れする。
- 棚倉町キャリア教育アドバイザーと連携し、立志教育講演会を計画的に実施。



夢がゴールではない。その先に志がある。

人生の経営者は自分。自分で決める。

(2) キャリアパスポートの有効活用

- 小中高のつながりを意識して活用し、自己理解を深めさせ、コミュニケーションツールとする。
- 目標・計画・反省・振り返り・改善をさせ、新しい目標とPDCAサイクルを自己管理する。

(3) キャリア手帳（フォーサイト手帳）の活用

- 自己の生活を管理するとともに、自己理解・自己管理能力を育成する。



【教科等横断的な活用】

気付いた時にすぐに開き、学習の振り返りや、今日の課題等について書くことで、自分の課題を意識したり、苦手克服に向けて対策したりする自己マネジメント力が育まれている。

棚倉町立棚倉中学校 実践研究テーマ:自分のよさを伸ばし、「なりたい自分」の実現に向けてチャレンジする生徒の育成

サブテーマ:学ぶ意欲とスキルを育てる授業づくり(R4)

(4)「ほめポイント」の共有

【ほめポイント】

設定した資質・能力に照らし合わせた、その子のよさや将来に向けて伸ばしたいところ。

○学年ごとに、各学期で育てたい資質・能力を設定。

「ほめる」⇒「できたことを見取って、価値付けする」の繰り返しを重視

1 学年 「互いに協力し合い、自分のよさを伸ばせる力」

1 学期「新しいことに取り組む時、前向きに取り組もうとする」

2 学期「話を聞く時、その内容を聞き取ることができる」

3 学期「目標実現へ向けて、見通しを持って行動することができる」

2 学年 「自分のよさを大切に、前向きに挑戦する力」

1 学期「自他のよさを認め合い、お互いに協力して物事に取り組むことができる」

2 学期「困難なことに対しても、前向きに挑戦することができる」

3 学期「なりたい自分の実現に向けて、見通しを持って計画を進めることができる」

3 学年 「自分のよさを生かしながら、将来の生き方について考える力」

1 学期「何かをする時、見通しを持って計画を進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりする」

2 学期「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めることができる」

3 学期「今学んでいることと、将来のつながりを考えることができる」

(5) 意図的・組織的な意思決定の場の設定

○「自分で決める」をモットーに、自己選択・自己決定させる場を意図的に設ける。

○フォーサイト手帳とテスト計画表（課題中心型）の連動

(6) ガイダンスとカウンセリングの充実

○ガイダンス（集団の場で必要な指導や支援）とカウンセリング（生徒が抱える課題に個別に対応した指導）の双方の充実による、生徒たちの発達を支援。

○キャリアパスポートによる教師の生徒理解や、「ほめポイント」の共有などの取組を生かす。

【生徒の変容】

キャリアパスポートからの見取りを生かした関わり

(以前) 引っ込み思案、友達ができるか不安

自分発見シート
(小学卒業時)

友達と仲良くして
友達をたのむ
つくりたい

クラスの女子の人数が少ないから、
1人になってしまふから話せない
事がある。

本人の変容

【目標】「多くの人と関わりたい」

(1年1学期)・緊張から表情が硬く、不安が先行。

・級友との関わりにやや後ろ向きな発言もあり。

(1年3学期)・多くの級友と交流し、クラス替えを惜しむ発言。

・「もっとたくさんの人と関わりたい」

(2年1学期)・学級委員を務める。最初は呼びかけあまりできず。

(2年2学期)・合唱練習の際、積極的に呼びかけをする。

中1終了時

自分の
もてなす人
関わりをもつ

【今後の取組について】

○子どもの姿による評価・検証・改善を行い、よりよい取組につなげていく。

○教科横断的な取組をさらに推進し、「なりたい自分」の実現に向けて学び続ける生徒の育成を目指す。

令和4年度 キャリア教育 全体計画

【教育目標】

「生きる希望」と「生きる力」の育成

- 1 確かな学力 【知】
- 2 豊かな心 【徳】
- 3 健やかな体 【体】

【生徒の実態】

	1年生	2年生	3年生	平均
人間関係形成・社会形成能力	71.3(+3.0)	74.0(+6.4)	81.6(+2.3)	75.6(+3.9)
自己理解・自己管理能力	87.1(+2.2)	86.3(+4.8)	66.7(+0.6)	80.0(+2.5)
課題対応能力	66.6(+0.2)	66.5(+7.9)	68.9(+1.1)	67.3(+3.1)
キャリアプランニング能力	84.9(+0.1)	82.2(+4.5)	84.5(+2.8)	83.9(+2.5)
平均	77.5(+1.4)	77.3(+5.9)	75.4(+1.7)	-

(1・2年)ふくしま学力調査・(3年)全国学力・学習状況調査の質問紙から集計項目を選択した。集計する項目の選択にあたっては筑波大学藤田晃之先生の提案をもとにした。「±」の数値は県平均との差である。

【キャリア教育の目標】

自分のよさを伸ばし、「なりたい自分」の実現に向けてチャレンジする生徒

～自分を知り、他人と上手につきあい、自分のやるべきことができ、先のことを見通して行動できる力の育成～

【育成すべき基礎的/汎用的能力】

(人間関係形成・社会形成能力)	つながる力	考えの違う他者と折り合いをつける力
(自己理解・自己管理能力)	自律する力	自ら立場・役割を自覚し、立体的に生きていく力
(課題対応能力)	乗り越える力	様々な課題に前向きに向き合う力
(キャリアプランニング能力)	見通す力	学ぶことの意義を考え、将来を拓く力

【各学期で育てたい資質・能力】 → 「ほめポイント」として、みんなで認めて・ほめる

	1 学年	2 学年	3 学年
学年目標	互いに協力し合い、自分のよさを伸ばせる力	自分のよさを大切にし、前向きに挑戦する力	自分のよさを生かしながら、将来の「生き方」について考える力
1 学期	新しいことに取り組む時、前向きに取り組もうとする。 (自己理解・自己管理能力)	自他のよさを認め合い、お互いに協力して物事に取り組むことができる。(自己理解・自己管理能力)	わからないことやもっと知りたいことがあった時、自分で調べたり、人に聞いたりできる。(課題対応能力)
2 学期	友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞いたり、自分の意見を相手にわかるように伝えたりする。(人間関係形成・社会形成能力)	自ら考えたり、改善を図り、難しいことにも前向きに挑戦することができる。(課題対応能力)	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。(人間関係形成・社会形成能力)
3 学期	何かをする時、見通しをもって計画を進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりする。(課題対応能力)	「なりたい自分」の実現に向けて、見通しを持って計画を進めることができる。(キャリアプランニング能力)	学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学んでいることと将来のつながりを考えたりする。(キャリアプランニング能力)

【具体的な取り組み】

1 「生き方」を考える立志教育の推進

- (1) 2年生での立志式を契機として、「1年・志を求めて」、「2年・志を立てる」、「3年・志に向かって」を学習活動の流れとする。
- (2) 棚倉町キャリア教育アドバイザー・岡野誠氏と連携し、立志教育講演会を計画的に実施する。

2 キャリアパスポートの有効活用

- (1) 小中高のつながりを意識して活用し、自己理解を深めさせ、コミュニケーションツールとする。
- (2) 目標・計画・反省・振り返り・改善をさせ、新しい目標とPDCAサイクルを自己管理する。

3 将来を支援するキャリア手帳の活用(自己管理型手帳)

- (1) 自己の生活を管理するとともに、自己理解・自己管理能力を育成する。

4 「ほめポイント」の共有

- (1) 各学期で育てたい資質・能力を「ほめポイント」として共有し、みんなで認めて・ほめる。

5 意図的・組織的な意思決定の場の設定

- (1) 「自分で決める」をモットーに、自己選択・自己決定させる場を意図的に設ける。

6 ガイダンスとカウンセリングの充実による生徒の発達の支援

- (1) 集団の場で必要な指導や支援をガイダンスとして、生徒が抱える課題に個別に対応した指導を行うガイダンスとして、双方によって、子ども達の発達を支援する。
- (2) ガイダンスとカウンセリングを有効に行うために、人間関係や集団づくり(学級経営)を充実させる。

棚倉町立棚倉中学校 キャリア・パスポート活用事例

小中の接続(子どものよさを上級学校へ引き継ぐ)

生徒・保護者・学校のコミュニケーション・ツールへ

キャリア・パスポートの活用①

自分発見シート(小学校卒業前に記入)

(生徒自身の)自己理解につなげる

小学校の先生から

保護者から

あらためて本人から

中学校の担任から

(教師の)生徒理解につなげる

各行事の充実(目標・計画・反省・振り返り・改善の見える化)

キャリア・パスポートの活用②

PDCAサイクルの意識付け

目標

計画

反省・振り返り

改善・気付き

担任からのコメント

新たな目標へ

体験を「点」ではなく、次の目標に「線」としてつないでいく